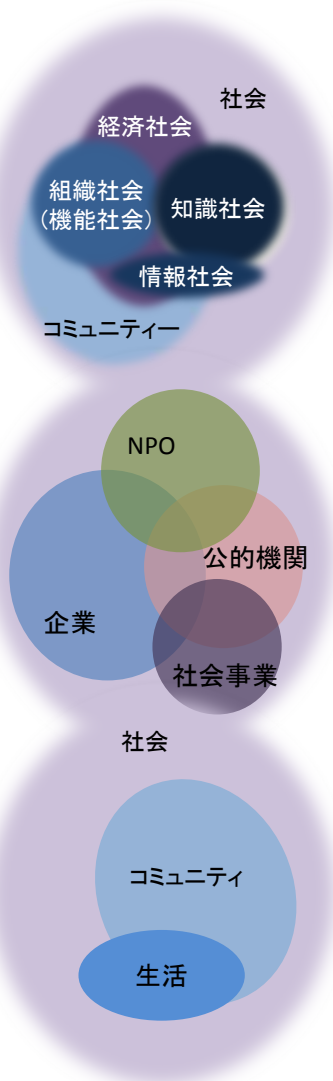


社会の構成

仕事をする眼と生活の眼は立ち位置が違っている。見る対象も異なり見方も違っている。



☛ 社会は様々な問題を扱っている。

教育、健康、芸能、衣食住を賄わなければならない、秩序を保たなければならない。生涯を通して安心できる社会を築こうとしている。平和、平等と自由を維持するための機能を持たねばならない。産業革命が起こり、技術革命、生産革命と進み、産業が発達し経済を中心とする社会になった。経済の発展が社会を発展させる軸になっている。産業が社会の機能を担い、企業が1つまたは複数の機能を社会に提供し、機能が分化して機能社会、または組織社会になった。生産力を知識が担い、知識労働者の比率が社会の大半を占めるようになった。知識社会になった。コンピュータ産業が興り、インターネットが普及し、情報が社会を動かす要因になった。情報社会である。

現在は、経済社会、機能社会、知識社会、情報社会が発展していつている。この社会が、私たちに仕事を提供し、生活を安定させる方向へと進めている。

—— 社会を全体にしてベン図で表した。経済、機能、知識、情報社会が重なりあって存在している。4つの社会の合計は社会全体にはなっていない。空白部分は、社会の概念・思想であったり、文化、習慣、宗教などが含まれている。4つの社会だけでは社会は機能しない。

☛ 企業、公益法人、社会事業、NPO等が機構として存在している。

これらの組織は、法的定義と制約によって分類されているにすぎず、それぞれの特徴となる機能が重なりあっている。企業は企業が持つ特異性によって作り出した製品やサービスを提供するだけでは存続しにくくなっている。積極的に社会の問題を取り込み、企業が得意とする知識・技術で問題を解決しなければならなくなってきた。公益法人、NPO等も経営として自立しなければならなくなっている。それぞれの組織機構の境界があいまいになりつつある。製品、サービスの提供も、一社だけで成立せず、多数の他社の知識・技術を組み合わせなければならない。

☛ 仕事は何らかの機能を社会に提供して成立する。

機能を提供するために個人のそれぞれが組織に所属し仕事をしている。社会機能の過不足やバランスが崩れると産業構造変化が起こる。科学の発展が産業構造を刺激し変化を要求する。

☛ 個人生活も社会と同じように様々な事柄を扱っている。

社会に比べれば、扱う問題の規模は小さく、その時々問題は異なっている。常に同じ問題は発生しておらず、問題が変遷していく。社会は個人の問題を解決するために、生活を支えるために機能している。それぞれの仕事は社会機能を果たすために行っている。そして、社会に存在するあらゆる機能をその時々で活用している。社会が多機能化して、人々に移動の自由をもたらした。個人が社会に参加する従来の市民性が失われつつあるためにコミュニティが新たな形で出現している。

☛ 観察の対象として、生活をあげておかなければならない。